

女性のそばの食し方についての考察

15023 松田綾子

もりそばを食べるとき、豪快に音を立てながらズルッ、ズルズルーッとたぐる姿は、見事な江戸仕草のように思っていた。しかも、初老の男性が、力強くたぐると、これまでの人生の『成功者』の現在…というような、勝手な妄想をするのは、ひとりそば屋でそばを待つ身にはちょっとした楽しみでもあった。

ところが、金沢の老舗のおかみさんとそば屋に行ったときに、目から鱗の仕草を拝見した。それはそれは優雅を絵に描いたような方だったのだが、ざるの上で2～3本のそばをたぐり、一度置き、塩を箸先でちょんちょんとのせ、くるりとそばを巻き込んでおちょぼにした口に運んで召し上がった。

「この食べ方が一等好きなんよ」と、これまた優雅におっしゃる。わー！美しい！まず、ピンと伸びた背筋がきれい。そのころの私はうっとりとしてしまった。

我が身はそば汁にズドンと音がするくらいにそばをつけてしまい、取り戻すようにそば猪口の中でたぐって大きくあけた口に運ぶ…もちろん周りには汁のしぶきがぼちぼちと模様をつくっている。あわてて、先ほど手を拭いたおしぼりで、ごしごしとテーブルを拭く。元々がきつな上、不器用なものだから、「ごちそうさま」のときはほぼ茶色いおしぼりになっている。情けない。

麺類は、大好きなのだが、汁物は、必ず、胸元を汚してしまうのである程度大人になったときは、恥ずかしいが、「まいかけ」をかけて、麺類には臨む。おまけに猫背だ。どちらにしろ、かっこわるいことこの上ない。

なにもかっこよく食べなくてもいいと思うが、ちょっとこの歳になってこぼし過ぎ、飛ばし過ぎなのである。

私のよく行くある店では、女性のそば猪口は漆塗りのもの。男性は白木のそば猪口。なんでも口を付けられたときに口紅がつくと、洗ってもとれないからという理由だった。なるほど、口を付けないでたぐるのか？何となく見えてきた…

ところが、なにげなく見ていたバラエティ番組でタレントの行きつけのお店に、アナウンサーを連れて行くという、本当によくあるその1シーンに雷で頭を撃たれたように仰天してしまったのである。

それは、松たか子。『小さいころからよく来ている』『ひとりでもしゅっちゅう来ている』『父ともよく待ち合わせる』というそば屋に、アナウンサーと対面し、座り、会話を楽しんでいる。そして、松たか子の前にもりそばが置かれる。置かれるか置かれなにかの一瞬のうちに箸を割る。そしてなんと、アナウンサーの頼んだ（確か）温かい松茸そばの来る前に、自分の前に置かれたもりそばを、ズルズルズルズルと3口で食べ終わってしまった。もちろん背筋はピンと伸びている。

これぞ、江戸しぐさ！かっこいい！アナウンサーは、あんぐりと口を開けたまま。

当然、テレビの前の私は、家にあった乾麺をすぐにゆがき始めた。これは、まねしなくては？と、練習してみたのだが、なかなか、パワーがいる。特に吸引力は、相当なのである。おまけに猫背である。

さすが、松たか子！この人はテレビに出ていると、いつも女らしさよりも男らしさを感じてしまうほどののだが、とにかくかっこいい。

そのとき以来、一般人の食レポを含め、そばのたぐり方については大注目しているのだが、女性では松たか子ほどかっこいいたぐり方をしている人はいない。

そりゃあ、女性が、お見合いの席にズルッ、ズルズルーとやっちゃっては、まとまるものもまとまらないかもしれないが…。

また、海外でスパゲッティを、ズルズルはもちろんいただけなのはわかっているつもり。

どうしたら、女性が美しくそばをたぐれるか…そして、自分がそのそばの美味しさを十分に楽しめているか？この双方を満たすたぐり方…今後とも研究し続けたい。